



細川茂樹 アプリ開発プロジェクト

第2回 ベータテスト開始

■ 安蔵靖志 IT・家電ジャーナリスト

日経BP社「日経ネットブレーン」「日経トレンドネット」
などを経てフリーランスに。広報学会会員。
yasushi@anzo.jp http://anzo.jp/

Android 版家電取説アプリのベータテストを開始

連載第1回では、お茶の水女子大学の大学院生である池田彩さんと平井弘実さんがメンバとして参加し、家電製品の取扱説明書を整理・閲覧できる「どこでもトリセツ」(仮称)開発に向けての技術的なアイデアを求めるところまで述べた。

その内容について詳しく紹介していきたいのだが、まずはそのアプリをAndroid OS 向けに開発し、ベータ版として公開にこぎ着けたことをここで発表しておきたい。ベータ版ではメーカー名や製品カテゴリ、購入年やキーワードで対象製品を絞り込み、必要な取扱説明書をダウンロードするUI(ユーザインタフェース)設計まで仕上がっている。

最初にUIのアイデアを検討

細川茂樹氏による要求仕様の説明後、開発メンバとなった池田さんと平井さんにUIに関する提案を求めた。UIに求められるのは高齢者でも使える手軽さのため、細川氏からは「声による入力」「製品の一部を撮影して、メーカーや製品名を認識させる」といったアイデアが寄せられた。

家電製品のUIなどを研究する池田さんからは、「デジタルスケールを用いて測定した製品の重さから製品を絞り込む」というアイデアが提案された。独小売大手・メトロの「フューチャーストア」で採用されている「インテリジェントスケール」(形や色で商品を自動認識し、重さで価格を算定するというもの)にも似たユニークなアイデアだが、アプリで実現するのは困難なため今回は見送られた。

できれば音声入力や画像認識によるキーワード入力を採用したかった。平井さんからは、米Googleが提供する画像認識エンジン「Google Goggles」を利用するという提案があった。しかしこちらはまだAPI(プログラム開発インタフェース)が公開されて



平井さんが制作した家電取説アプリの起動画面



取扱説明書の検索画面。メーカーや製品カテゴリなどで検索する

いないために将来の課題とした。使いやすいUIは広く皆さんにも挑戦してほしい。

オープンソースで公開し、開発者を広く募集

家電取説アプリのコンセプトはシンプルだが、ユーザが手軽で便利に利用するためにはさまざまな技術的ハードルがある。開発リソースにも限りがあるため、まずはカテゴリやキーワードなどによって製品を検索し、スマートフォン本体にダウンロードする基本機能を制作することになった。

中島秀之編集長の提案により、家電取説アプリはオープンソースで開発・提供することで開発チームの合意を得た。プログラミングは平井さんが担当し、ベータ版を制作。それをベースに機能の追加やブラッシュアップを行っていく。

各メーカーの製品および取扱説明書のデータベース化やその手法、音声やカメラを利用した検索方法など、現状ではさまざまな課題を残している。ぜひ多くのベータテスターに参加していただき、より良いアプリにしていく予定だ。

前号でも紹介したように、現在家電取説アプリのベータテスターを募集している。ベータテスターの方々には開発に際してのアドバイスや技術的な協力をいただけることを期待している。

(2012年1月18日受付)